

令和2年度 学校評価 小学校結果

令和3年3月末 学校教育課まとめ

No.	学校名	1		2		3						6			表示以外の評価分野
		中期的目標		今年度重点目標		学校自己評価結果						学校関係者評価			
		項目数	No.	分野	重点関係	評価項目・取組内容	達成状況	取組状況改善方策	評価項目	実施方法	総合				
1	精道小学校	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	授業研究
2	宮川小学校	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	学習指導
3	山手小学校	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	人権教育
4	岩園小学校	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	互いに認め合い、尊重し、関わり合う良さを感じられる学級づくり

No.	学校名	1		2		3						4			5	表示以外の 評価分野
		中期的目標	今年度重点目標	学校自己評価結果						学校関係者評価						
				項目 数	No.	分野	重点 関係	評価項目・取組内容	達成 状況	取組状況 改善方策	評価項目	実施方法	総合			
5	朝日ヶ丘小学校	「共に学び 支え合う子ども」	1 教育の基礎・基本を大事にして、安心して、落ち着いて過ごせる学校にする。 2 学び合い、支え合いを大切にできる学校をつくる。 3 体験活動や読書を大切に、心豊かな子どもを育てる。	2	2	体験活動の充実	3	・各学年の発達段階と課題に基づいた体験活動がおこなわれているか。 ・地域の方、公共機関、専門機関の方などゲストティーチャーや保護者の教育力を活用しているか。	B	・今年度は、来校いただいた学習が多かったが、「カリキュラムマネジメント」に取り組み、教科を横断的・総合的に関連付けて、様々な体験活動を実施することができた。 ・PTAの協力、地域住民、専門機関の協力があり、多くの方々に教育力を発揮していただくことができた。特に高学年において、多方面のゲストティーチャーの教育力を活用できた。	・保護者や地域、専門機関等の入りに体験活動の知らないや内容等について理解を求めていき、安全確保を図っている。 ・今後も地域や保護者、外部機関、専門機関と協力を広げながら教育力を活用していく。さらに、実施後の振り返りを行い、学校全体で共有していきたい。その後の生活や学びに生かしていく。 ・児童の自ら考え、主体的に判断し、より良く問題を解決する能力を育てられる体験活動を実施していく。	・昨年12月に保護者・児童・教職員に15項目のアンケートを実施した。保護者・児童・教職員への質問の文言を変更し、WEBアンケートの実施も行った。保護者アンケートがWEB回答になり、回収率の低下が見られた。保護者の自由記述は、webの方が書き込みが多かった。	・学校の取り組みについては、アンケートの回収率が85.5%。保護者の評価はほぼ90%以上となっている。さらに丁寧な取り組みを進めてほしい。 ・学習活動をはじめ、学校が落ち着いている。	学び合い 支え合い		
6	潮見小学校	学び合い 支え合う 心豊かな子どもの育成	1 子どもの説明力を育む授業研究し、学び合う授業の創造をめざす。 2 どの子も理解され、大切にされる教育をめざす。 3 教職員の働き方を見直し、業務改善を行う。	3	1	教育課程(学習活動)	1	(1) 授業研究 ・説明力を育てる授業づくりについて、全教員による授業公開。 (2) 学級会の在り方研究 ・学級会を通して子どもたちが主体的に考え、対話する力をはぐくむと共に特別活動のカリキュラムを整備した。	B	(1) 授業研究 ・事後研究会の報告に示された留意点や課題事項を踏まえ、次の授業者が授業実践を行い、研究に連続性を持たせ、継続するように取り組んだ。 (2) 学級会の在り方研究 ・教師の助言が適切になされるよう留意して授業実践を重ねた。各種指導や学校行事、児童会行事との関連を確かめ、実態からカリキュラムを作成した。 ・改善方策：授業における学習課題の提示の方法を工夫するようにした。	・感染症の影響のため実施できず	・感染症の影響のため実施できず	・課題教育(防災教育・人権教育) ・学校運営			
7	打出浜小学校	「豊かな心を持ち、自ら考え進んで実践しようとする心身ともに健康な子ども」の育成	1 学校や地域の特性を生かし、つながりを意識した学校づくりの推進 2 主体的な学びを意識した学習指導や教育活動の工夫 3 道徳教育や命や人権を尊重する教育の推進 4 心身共に逞しい力を育成し、生涯学習の基礎を培う教育活動の推進	4	1	開かれた学校 特色ある学校づくり	1	①ホームページのブログを活用し、学校の取組や状況を随時公開する。「学校だより」の定期的な発行 ②外部人材の有効活用 ③新型コロナ対策をしながら、各学校・学年行事等々、保護者が来校できる機会を設定し、学校、児童の様子を広く公開する。 ④コミスク主催行事等へ積極的に参加し、児童、地域がふれあう機会、気運を高めていく。	A	①学校だより「打出浜」を定期、随時に発行。新型コロナ対策を徹底し、行事前には、参観場所を明確に案内、参加しやすい体制を実施した。 ②ホームページを活用し、学校の取組や状況を随時公開する。 ③地域行事へ参加したり協力したりすることで、地域、学校の連携体制を大切にしたい。	①保護者アンケートで、学校が保護者に学校の取組や児童の様子についての情報がよく伝えているという評価が昨年より増加した。 ②学校・学年・学級便りを通して、学級の様子等を伝えている。また、HPを活用し、行事の様子等を公開し、アピールもできた。	・教職員による学校評価、保護者の視点からの学校の取組、指導の在り方等への評価、児童の振り返りを含めた自己評価、様々な立場、観点からの評価を実施し、さらに各行事ごとに保護者からアンケート調査を行う等、方法として適切である。	・全体的に高い評価が多く、保護者の児童への関心の高さが感じられる。昨年度に比べて、A評価の割合が増えていることは、打小の教育活動が十分評価されていることであると考えられる。保護者から高評価を受けた項目については、その要因を分析して次年度につなげていかなければいけない。逆に比較的评价が低かった項目については、今後、改善策を検討していく。	・基礎基本の学力の定着及び自ら学ぶ意欲と能力を育む学習指導の工夫 ・目的意識的な自律的な生活の力を育む ・「安心・安全」な学校づくり ・命と人権を大切にすることの推進		

No.	学校名	1	2	3						6	4	5	表示以外の 評価分野	
		中期的目標	今年度重点目標	学校自己評価結果						学校関係者評価				
				項目 数	No.	分野	重点 関係	評価項目・取組内容	達成 状況	取組状況 改善方策	評価項目	実施方法		総合
8	浜風小学校	全教育課程を通して「自ら学び 共に生き 創造する子」の育成に努める。	1 学び合う子の育成 2 お互いに認め合い、共に生きようとする子の育成 3 主体的に創り出し、活動できる子の育成	2	1	学力の 向上	1	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルタイムや宿題、放課後等の個別指導などを通して、基礎学力の定着・向上を図る。 ・「相手意識」を持った言語活動を中心に授業を組み立て、「学び合う」学習環境を整える中で、主体的・対話的で深い学びに取り組む。 ・教科指導と連携した読書活動を進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルタイムは、計算・漢字を取り入れ、ドリル学習に取組を進めた。タブレットが導入され、その活用を模索しはじめた。 ・学び合うことを意識した授業改善を進め、土壌を作ることで、主体的に学ぼうとする児童が増えてきた。今後は、より深い学びにつなげるために、一人の発言から、学びが深まるように「学び合う集団づくり」の質を高め、いく意識を全教職員がもち、取り組む必要がある。 ・ブックラックを活用し、教室に授業に必要な本を持ってきたり、学校図書館を活用したりして、読書活動の充実を図ってきた。今後、ブックラックを増やし、学年に応じた本を学年にもっていき、本に触れる機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が、子どもの状況を理解をしっかりと行い、子どもたちにとってわかりやすい授業を行うとともに、子どもたちの生活や学習の状況等を保護者に伝え、連携することが大切である。 ・タブレットを有効活用していったきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの結果をもとに、学校関係者に意見をもらい、評価を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高い評価が維持されている。また、保護者からの回答率が高い。コロナ禍ではあるが、学校の取組が保護者にも十分に理解されていると思われる。読書への取り組みをより一層進めていただきたい。 	心の教育 の充実